

4
読 む
表現の工夫をとらえる 〔知識・技能〕
名 前

文学的文章を読むときには、いろいろな表現の工夫に注目し、その効果やおもしろさを味わいましょう。表現の工夫に注目すると作者の意図がみえてきますよ。

**やってみよう**

一次のA、Cの文を読み、表現技法について説明した(1)～(3)の文の□に  
あてはまる言葉を書き抜きなさい。

A 落書きされた机が泣いている。  
B 猫の目は、闇の中で宝石のように輝いた。  
C 青空に浮かぶ雲は、白い羊だ。

(1) Aの文では□を人にとえて表現している。 ↓ **擬人法**

(2) Bの文では□を□にとえてている。 ↓ **直喩法**

(3) Cの文では雲を□にとえてている。 ↓ **隠喩法**

二次の文章を読み、線部に使われている表現技法をあとのアからウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

早苗は、目を覚ますとすぐに庭に出た。咲いている、アサガオが。今年初めての花だ。

ア 体言止め…文の終わりを体言(名詞)で止め、文章を簡潔にして余韻よゐんを与える。  
イ 倒置法…言葉の順序を普通と反対に置きかえて、心情などを強調する。  
ウ 反復法…同じ言葉を繰り返し返して、その語や句を強く印象付ける。

三次の文章を読み、(1)・(2)にあてはまる擬音語や擬態語を、それぞれあとのアからエの中から一つずつ選んで記号で書きなさい。

太一は今日のスケッチ会を心待ちにしていた。それなのに、昨日からの雨はやむ気配けはいがない□(1)と降り続く雨の音を聞きながら、太一は祈るよような気持ちで窓から暗い空を見上げていた。雨脚あまあし(あまあし)は強まるばかりである。□(2)した空気がよけいに彼の気持ちを滅入めい(めい)らせた。

(1) □には擬音語が入ります。適切なものを次から一つ選んで記号で書きましよう。  
ア シューシュー イ サワサワ ウ ザーザー エ ペタペタ

(2) □には擬態語が入ります。適切なものを次から一つ選んで記号で書きましよう。  
ア ふわふわ イ ばらばら ウ ちよろちよろ エ じめじめ

□ □